

## 教育大岩見沢校の大学生、東川小児童が写真作り挑戦

# 写真ワークショップで写真教育に新たな可能性

写真の町で新たな写真教育への試みが始まりました。道教育大岩見沢校の大学生の合宿写真演習、そして東川小4年生児童の写真ワークショップ。写真を写すこと、選ぶこと、評価し合うことと得られるものは？ カメラという道具を使って新たな視点や表現力、分析力、コミュニケーション能力などを学ぼうという試み。写真の町事業に新たな教育的事業の要素がまたひとつ加わろうとしています。



◀撮影してきた写真の振り分け作業(教育大生)



10月26日、道教育大岩見沢校のメディアデザイン専攻の大学生15人が2泊3日の合宿写真演習に初めて本町を訪れました。

写真とは何か？をテーマに、写真撮影実習と作品選定、講評をする写真ワークショップ、「地域の記録と記憶を巡って」など写真をテーマにした現地講義の数々。

学生の間ほとんどは東川町に関して「写真のまち」という言葉程度の理解しかなく、具体的にはよく知らなかったようです。

今年の東川賞、写真甲子園の様子をDVDビデオで見ながら、規模の大きさにあ然。

町の歴史を記録し

続けてきた飛騨野数右衛門さん(94)

を招いた講義では、記録資産としての写真、撮影し続けるという定点観察の雄弁さ、現代史の中に埋もれた地方史が写真映像として残っている希少性などが分かったようです。

デジタルカメラを手に、思い思いに町内撮影もしました。商店街の風景、木々の紅葉、神社の境内など、思い思いのテーマで写真撮影し、ワークショップも行いました。

撮りためた写真データを整理し、作品を選んで提出します。写真甲子園での作品作りと同じ手順。テーマ性は？ 選んだ写真の妥当性は？ 撮影技術は？ などと厳しい評価が下ります。一連の作業を通して写真の奥深さに触れたようです。

飛騨野さんは、1928(昭和3)

年、14歳の時に親戚からカメラをもらって町内を撮り始めて以来、町の歴史を写真に収めてきました。

戦前、戦中、戦後の町並み、松山温泉(現天人峡温泉)の開発草創期や町民の戦中出征風景、旭川電気軌道の電車が走っていた当時のにぎやかな町の風景など、民間人の視点が特徴的です。

◇

10月18日、東川小4年生65人が「働くまちかど」撮影に挑戦しました。

「写真の町青少年ワークショップ」と名付けた写真学習です。写真の町実行委員会から本格的なデジタル一眼レフを借り、6、7人ずつのグループ



▶道路のタイル舗装の作業風景に迫りました(道草館前、東川小児童)

に分かれて学校周辺の町内中心街を撮影しました。

道の駅・道草館の職員、道路舗装作業をしている作業員、豆腐店、郵便局員、薬局など働く人々がテーマです。どうやって撮影を頼むのか、写す時の角度は？ など、なかなかうまく撮れません。写し終えたデータはすぐに回収。12月になって各班10枚ずつを選び出す写真選定、講評という作業を予定しています。

結果は来年1月7日から文化ギャラリーの作品展示会で発表する予定です。本格的なワークショップです。

思い思いに街角スナップの作品作り(教育大生、役場前)▶